

末広まちづくり推進協議会 会議録 令和6年度第2回

会議概要	
日時	令和6年11月14日（木曜日）午後6時00分から午後7時30分まで
場所	末広公民館 2階 講堂
出席者	委員（13名，正副会長以外は50音順） 村田会長，加藤副会長，泉川委員，大城委員，金澤委員，柴田委員， 正部川委員，田畑委員，舘岡委員，早川委員，前川委員，柳澤委員， 渡瀬委員 （欠席者 中山委員） 事務局 地域活動推進課 岩崎次長，小松主幹，高桑専門官，木下主査 末広公民館 澤井館長
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者の数	0名
会議資料	次第
	資料1 「末広まちづくり推進協議会」委員名簿
	資料2 地域まちづくり推進協議会の在り方について
	資料3 令和6年度末広地域事業報告
資料4 末広まちづくり推進プログラム	

議事の内容

1 開会

2 委員の紹介

すずかけ商友会推薦の委員交代があったため、後任委員の紹介を行った。

3 協議事項

(1) 地域まちづくり推進協議会の在り方について

資料2「地域まちづくり推進協議会の在り方について」について、資料をもとに事務局より説明を行った。委員との質疑応答は次のとおり。

- ・(委員) 協議会はコーディネート機能まで持てるという理解で良いか？
(事務局) 協議会委員がそこまで行くと考えるならば、行うことは可能だ。
- ・(委員) 懇談会に移行する前、協議会として行った事業にどのようなものがあったか？
(委員) 通学路の冬季安全について、地域の該当箇所の写真を撮ってマップを作成した。
- ・(委員) 地域運営組織の地域ビジネスとはどのようなものか？
(事務局) 全国では、地域製品のコンビニ販売、農業地帯の農産物販売による運営資金調達の例がある。
- ・(委員) 旭川の地域ビジネス事例はあるか？
(事務局) 地域運営組織としての地域ビジネスはない。西神楽のNPO法人がホテルのイベントや冬期集住に取り組んでいるが、地域ビジネスにはなっていない。

(2) 令和6年度末広地域事業報告について

資料3「平成6年度末広地域事業報告」に基づき、「末広地域交通安全対策事業」「末広地域活動団体PR事業」「末広ふれあいスポーツクラブ子どもの居場所づくり事業」「末広見守りネットワーク担い手連携事業」について、事務局から事業報告を行った。それに対して、委員から補足があった。

- ・(委員) 末広ふれあいスポーツクラブは月2回開催しており、これまでに14回開催した。登録者数は15名。

(3) 末広まちづくり推進プログラムについて

資料4「末広まちづくり推進プログラム」に基づき、加除修正する箇所があるときは、12月

末めに事務局へ連絡（様式自由）してもらったこととした。

（４）課題と今後の取り組みについて

前半は「地域まちづくり推進協議会（まち協）とは」をテーマに、プロジェクター映写しながら、まち協の役割について説明を行った。委員から、以下の質問や参考情報があった。

- ・（委員）地域の課題を出す作業の後、実際に動いたものにはどのようなものがあったか？
（事務局）東光地域の例で、東光地域全体で何か取り組んでいけないかと、２年間かけてまち協委員で話し合いが行われて、チクリンピックの事業がスタートした。いまは龍谷高校も参加している。
- ・（委員）「ふるさと祭り」は学校や幼稚園、地域の方々が多く参加して、警察の協力も貰って実施してきたが、昨年度でやめることになった。何もなくなってしまったと感じた。
- ・（委員）まち協の役割として、コーディネートが大事なんだと思う。意見交換して地域の課題を抽出して解決方向まで話し合った後、これらが地域の行動へ繋がっていく役割、そこがどうも見えない。
（事務局）北星地区の「たなばた祭り」が終わってしまって、その後、何かおまつり的なものがあった方が良いのではとなって、「北の散歩道」でイベントをするようになった。

後半は「町内会等の担い手不足課題」をテーマに、２班に分かれて、意見交換を行った。高齢化や担い手不足から、町内会の存続困難やスリム化の指摘があった。一方、町内会の役割を根本的に問い直すとともに、担い手の育成、負担感を減らす工夫など、持続可能な方向を模索する意見も出された。この課題は、今日の意見も踏まえて、以降、意見交換を継続して深めていくこととした。委員の意見要旨は以下のとおり。

- ・町内会のことだが、１０年経つと担い手が居なくなる。今は７０代で頑張っているが８０になれば頑張れない。また、担い手を探しても居ないので、そうなると、廃止やむなしの極端な方へ向いてしまう。市が本腰を入れて、たとえば、町内会役員を雇用していくなど。
- ・町内会がそもそも何のためにあるのか、根本から問うべきと思う。担い手は育てなければいけない。「育成」が課題。若い人に、部長、副部長を任せて、年配者がバックアップする。
- ・私の住む場所は古い地域だが、出てきてくれる若い人は居る。焼き肉パーティとか、親しくなることは大事だと思う。分かっている年配者が自分たちでやってしまいがちだが、次の人達に繋がるように考えないといけない。
- ・年１回のゴミ拾いに、子ども連れで来てくれる人が居る。ラジオ体操では、こんなにも若い人が居たんだな、と思った。
- ・３００戸の、とある町内会が解散をした。抜ける人が増えて、１００戸にまでなって、なり手がな

くなって、最後は、なくしても良い、となった。10月20日に開催されたまち協委員総合研修会は参考になった。そこで出されていたスマホやパソコンなど新しいものを取り入れること。行事が1つ終わるごとに、行事の実行チームを解散するなど、負担感を減らす工夫をすること。いままでと同じようにやっていこうには無理がある。

- ・時代に合っているかどうか、の視点。スリム化が大事だ。
- ・担い手が少ないから、副部長を廃して、部長だけにした。これでも結構やれる。あと、「協力員」という役を導入した。
- ・学校でも同じで、PTAのなり手がいない。PTAは何のためにあるのか、という根源的な問い。魅力や必要性がなければやってもらえない。そこで工夫して、行事ごとの、サポーター制度をやってみた。が、集まらなかった。
- ・ごみの関係とか、生活維持に要るものだけ、最低限の機能を残したらどうなのか。
- ・行政に任せて良いものまで、先人が引き受けた。無くしても困らない部分、持続可能のための、スリム化は要る。
- ・高齢者ばかりで担い手がいない。
- ・若い人との接点の取り方がわからない。
- ・ゴミステーションと街路灯ぐらいしか、町内会に入るメリットが見えない。(昔、葬儀は町内会主催だったが)
- ・ラインの使い方なんかを、小学生や中学生が高齢者に教えられたら良いと思うが、子どもたちの存在を把握するところから始まる。

4 その他

次回の協議会について

次回の協議会は、1月に開催する。あらためて日程を案内することとなった。

5 閉会